



沖入部
仙羅



子
四
本

特 別
A13
1912
1



遠 13
9/2

田專

紫雲齋



御入部伽羅女序

富貴とは是乃欲正所為蓋其乃と
これと得ざるも蓋自天不降生民みちを
りて人性を殊とせんをて運心は備
て安んじ洛陽長老所は太黒屋宗善とて
代々繁榮乃人あり慈心ゆへ佛神を
敬ふ事あり代末中へ其一生を安んじ
祀るれと人ん人琥珀乃栴檀とて
磁石曲るる鉄と吸ぐ心念ともなり
たんと是と後里行る者終

二時寶永七寅九月吉祥日湯漬氏翫水書之



御入部伽羅女卷之一

目録

御入部伽羅女卷之一

一 津國池田の一番れ

一 津國池田の一番れ
一 津國池田の一番れ
一 津國池田の一番れ

二 於小番大黒屋景吉

一 於小番大黒屋景吉
一 於小番大黒屋景吉
一 於小番大黒屋景吉

三 江戸一番れ材木茂

一 江戸一番れ材木茂
一 江戸一番れ材木茂
一 江戸一番れ材木茂

四 依小番佐助及

一 依小番佐助及
一 依小番佐助及
一 依小番佐助及

御入部 御入部 御入部 女卷之一

(一) 不思議の神風舞丸

姿は花は花と。初は。すなはた。電敷か。人か。噂へ。は。是より身技は。座実。中庸の。神の不思議と。根来。分限。年。酒。な。一。滴。万。倍。の。酒。は。一。年。京。茶。は。ひ。て。

人か。先。年。乃。次。京。酒。は。一。滴。万。倍。の。酒。は。一。年。京。茶。は。ひ。て。人か。先。年。乃。次。京。酒。は。一。滴。万。倍。の。酒。は。一。年。京。茶。は。ひ。て。

福入部一
正徳の初年。系にのり。此書付の家。其の
海あげ。さて風神とならぬ。信家位たり。其の
はくを。一何ら。海の家あり。其の。武家あり。其の
た。ま。つ。町人。と。た。り。は。は。は。の。高。貴。も。所。
新。徳。の。に。思。不。換。上。の。方。れ。る。ま。る。の。門。く。ま。る。
乃。男。一。時。ま。ら。よ。其。は。後。の。ま。ん。初。め。し。
翠。の。雲。間。よ。も。代。り。ま。る。思。不。換。上。の。定。級。あり。そ。ひ。と。下。
も。目。ま。る。に。合。格。の。一。擧。ぐ。め。町。人。の。ま。ら。り。ぬ。され。に。世。人。
の。み。隙。所。お。く。為。る。系。り。此。家。右。同。時。代。り。今。其。實。
永。海。の。お。家。の。あり。ま。る。代。り。後。の。ま。の。の。り。と。ま。る。
こ。乃。人。れ。を。ま。る。何。と。長。志。所。し。い。ひ。な。る。も。教。習。し。

か。ま。る。く。大。里。屋。の。宗。若。と。く。代。り。結。り。切。り。く。
何。十。色。の。り。は。神。と。ま。ら。り。の。信。家。一。大。里。屋。の。信。家。
と。其。の。あり。後。之。と。名。前。と。り。十。二。系。と。く。め。り。社。
か。く。十。三。乃。年。中。之。報。十。二。系。と。り。男。と。り。女。と。り。
て。書。と。り。先。祖。の。の。空。あり。と。く。と。家。も。牛。の。初。
る。生。ま。し。其。の。と。氏。り。よ。あ。り。の。終。す。と。ま。る。初。め。と。ま。
く。其。の。あ。り。と。り。や。揚。子。香。舎。連。誅。茶。乃。信。
其。の。六。の。か。一。姆。の。あ。り。と。り。味。せ。し。と。り。
何。も。が。初。乃。信。家。と。り。大。里。屋。乃。信。家。と。り。年。
と。何。日。の。お。家。と。り。あ。り。と。り。七。人。と。り。ま。る。と。り。此。
息。女。と。り。何。ま。る。と。り。の。氏。も。た。り。海。の。信。家。と。り。花。と。り。

ては家より事となりぬ

(中三) 英女車小海隠居人

世より傳へし傳へしは人より万葉時金神玉
同元とるなりて海中にいらは北也出現を伴ふ
英女車小海隠居人すなはてはひたの事と
里中事と大黒屋宗直も今も今更の時と
と和守三葉先祖三代の例は海に世は神ありし
と久しきを伝へしと樂せらる神の隠居とちび
家の隠居と戸の家督不殘傳取てより中三
我書より伝へしと傳へしと傳へしと傾城野島
と。和守もかたは。控とよりし後隱居隠居へたりと

其傳へしは十宮より女とちびとて隠居と

一 秘め女と人び女の役目とは二 中三の隠居と
中三の隠居とは三 立寄ありしとありしと
今隠居はまうり傳へしと秋の文書と
は乃中三とつと。秘してあるたりとありしと
とて。わゆる秘る事とありしと。秘の介伝し念佛
伝へしと。男婦りの言無評判。かよりありしと
目に入すと。お渡りあり。お渡りあり。男の教へし
なりと。わゆるのいとと。お渡りありしと。お渡りありしと
とありしと。お渡りありしと。お渡りありしと。お渡りありしと



かゝりけなれ動ぞし。あれど一子孫久も二五うぬ年
りり歳年くや共業。自然と流英男。因とととと
西の必は海なる男。あつたま。大おの黒髪。それり
漢朝の去籍春秋史記何ぞの去書録。眼と。いふ勢も。
仁義の媒者。乃の術。何なるを。いふ。徳教の長
と。いふ。つと。歴く。か。り。強。と。いふ。免。婚。用。乃。去。入。阿。事。
とも。積。久。所。く。よ。回。心。な。く。下。ん。お。家。の。金。母。と。い。ま
不。及。あ。ま。の。家。業。を。と。り。げ。さ。う。い。は。ぬ。く。と。是。又。ア。リ。リ。
このは。り。り。々。の。引。く。勢。疾。の。病。性。と。な。ま。目。も。ま
し。は。付。着。く。去。ま。ひ。つ。小。求。乃。く。信。く。系。中。乃。聲
家。り。り。ひ。ま。大。名。徳。業。の。典。業。存。海。が。湖。華。他。が。醫。方。り

今々もやねなきもぞい。一。家。れ。ら。る。と。氏。祚。へ。行
世。姻。く。大。祚。交。へ。も。く。り。信。の。命。ご。ひ。松。尾。考。公
一。湯。湯。と。海。の。せ。徳。与。君。山。の。貴。傍。さ。る。後。權。摩。と。信
檀。ま。ね。ど。所。中。も。も。之。升。ま。は。敵。山。王。坊。一。社。の。感
愈。り。や。ま。と。く。元。氣。は。合。を。可。み。十。九。拘。九。ツ。九。分
速。去。若。を。ね。く。せ。も。一。家。一。門。お。入。の。男。女。く。く。り。よ
と。め。り。信。の。神。の。ね。ら。く。信。の。奇。持。く。い。ま。く。美。々。真
より。播。久。も。今。も。も。や。り。の。者。よ。な。り。う。く。う。つ。た。く
よ。も。と。も。い。は。れ。さ。せ。な。り。花。ん。ひ。も。り。何。ゆ。ま。も。び
痛。別。ら。た。の。が。く。元。々。氣。乃。さ。く。と。も。り。由。氣
る。男。め。お。め。く。く。さ。り。事。中。め。を。く。く。ん。計。よ

一七 福めめ。中一はほろろきく。唯人より物をほり
し。れたあもけり。寝やれ氣く。而は仕事。好び
とが癖。無物と名。いづく。無物も。周も鼻。小
か。いづく。東京。大坂。さき。下。眉。商賣。さき。味
も。世を家。いづく。お。無。家。鼻。と。拂。年
中。乃。味。芳。新。も。喜。秋。さ。買。さ。つ。残。わ。打。く。
七。八。人。口。ゆ。り。さ。う。ん。ま。ま。あ。り。柔。然。さ。た。ら。し。下。女
小。者。う。茶。臺。に。て。中。後。種。り。末。社。系。中。は。半。七。人
皆。大。后。の。情。川。露。の。い。づ。れ。と。虚。と。さ。ま。ま。久。合。色。より
ゆ。朝。ま。く。年。中。内。は。絲。ぬ。商。賣。こ。ん。か。田。方。の。世。局。は。な。し
ま。う。く。の。因。果。ゆ。え。に。は。り。絲。の。麻。さ。さ。び。と。た。び。と。た。び。

あらとは一夜ゆくも。是乃。至。ま。は。目。の。中。の。麻。を。の
こ。も。い。の。も。あ。う。り。と。中。方。と。先。へ。の。氣。分。は。た。か。ら。る。理。で
く。さ。さ。さ。と。末。社。に。つ。ま。さ。く。女。房。太。さ。は。は。り。麻。を。さ。く
ま。さ。さ。と。同。様。と。物。の。内。の。り。り。か。ら。麻。も。ま。ま。い。も。合。ね。け
て。乃。女。房。中。く。人。乃。中。つ。く。と。は。各。別。い。ま。は。全。年。系。中
乃。人。を。さ。く。い。や。さ。と。種。さ。さ。の。物。あ。く。高。貴。任。務。に。見
せ。い。と。せ。い。ま。分。分。り。風。神。す。た。ま。ま。と。の。づ。く。る。我。后
は。程。世。の。付。合。目。と。筋。さ。だ。可。う。さ。く。これ。一。橋。全。目
費。は。較。輔。中。ハ。何。も。せ。し。所。後。法。さ。を。と。さ。せ。氣
乃。は。後。も。こ。と。さ。う。と。あ。さ。き。と。さ。く。大。火。より。あ。の。心。り
と。所。人。い。づ。く。と。確。系。い。づ。く。も。か。り。紙。園。ハ。改。り

といふ下よりは細引よ氣を付。是も機六。合点がゆく
 ぞし。あゝまう。せ免とくを。何をう包ゆん。うう
 ちと。おぬは今。ぬらまきをも。と音とバ。ゆぬをたひ
 ちく。理むめて。そえとへ。その強んせし。雙り礼云
 十之敷。すりぬに。福金由で揚。男がきてたふ。いと小
 軽箱分。波となぐせも。空八福免つけ。ありとく。何人
 頼。よきて我ホ。う身持く。P。ふも。あつと。あは。信は
 り。この。我。りの。の。の。あ。な。今。乃。系。と。そ。な。ま。二
 三年。も。ゆ。給。へ。ま。城。は。姉。き。あ。つ。て。あ。げ。ん。の。悦。び。茶。酒
 三月。の。内。裏。清。普。傳。何。程。だ。う。は。の。と。も。つ。と。五
 と。は。び。年。は。我。ホ。家。へ。あ。つ。と。若。ら。と。さ。う。と。海。女。あ。つ。と



かよハシ

くみく。りふ下りりハ人の。夏^あ久^く人^{じん}光^{ひかり}く^く指^{さし}給^{たま}也^ま
 耳^{みみ}は^はお^お歩^あん^んは^はい^いの^のね^ね理^りさ^さ海^{うみ}く^く跡^{あと}き^き乃^の救^{きう}も^も
 を^をり^りと^と骨^{ほね}は^はま^ま歩^あん^ん一^{いち}宿^{しゆく}と^とま^まく^くの^の跡^{あと}き^き。そ^そむ^む
 く^くち^ち心^{こころ}ま^まい^いゆ^ゆた^た。又^{また}ゆ^ゆな^なも^も氣^きと^と再^{また}ね^ね給^{たま}く^く極^{ごく}なり^{なり}。此^{こゝ}
 後^{のち}と^と其^{その}ね^ねの^の中^{なか}に^に先^{まづ}お^お脚^{あし}と^とあ^あま^まと^とた^た乃^のあ^あん^んを^を人^{ひと}
 七^{しち}の^の骨^{ほね}は^はま^まい^いゆ^ゆた^た。れ^れと^とま^まい^い。ア^ア人^{ひと}あ^あは^はく^く大^{おほ}極^{ごく}なり^{なり}
 て^てれ^れく^く海^{うみ}に^に痛^{いた}入^{いれ}。身^みと^とが^がま^まい^いなり^{なり}。

御入部伽羅女卷之一終

御入部伽羅女

